

## Q2 怖い病気ではないですよね？

さらに詳しく！

### ムンプス難聴

耳の奥の内耳という部分には、蝸牛かぎゅうというカタツムリのような形をした器官があります。蝸牛には音を電気信号に変える細胞が並んでいて、外から伝わってきた音を神経や脳に伝えます。

この蝸牛がムンプスウイルスに感染して障害されると、聴力に支障を来します。おたふくかぜの症状が出る前後に、「聞こえにくい、声かけに反応しにくい、聞き直しが多い、めまいがする」などの症状が現れた場合は、早めに耳鼻科を受診してください。



▼**無菌性髄膜炎**  
脳を包む髄膜に炎症が起こり、高熱や頭痛、嘔吐、首の後ろの痛みなどの症状が出ます。

▼**睪炎**  
みぞおちからへその上あたり痛みが出ます。吐き気や嘔吐などの症状をとまいません。

▼**脳炎**  
高熱や頭痛、けいれん、意識障害などの症状が現れます。発症はまれですが、重い後遺症を引き起こすことや、死に至ることもあります。

▼**難聴（ムンプス難聴）**  
ムンプスウイルスが耳の奥の内耳に感染することで起こります。発症すると、聴力の回復が困難です。

▼**精巣炎（睾丸炎）**  
思春期以降の男性がかかると、精巣が炎症を起こし、睾丸の痛みや腫れなどの症状が現れることがあります。精子の減少を招くことはありますが、不妊の原因になることはまれです。

▼**卵巣炎**  
思春期以降の女性がかかると卵巣に炎症が起こり、下腹部痛や吐き気、不正出血などをともなうことがあります。

## A 合併症が起こり 重い後遺症が残ることも

## Q3 おたふくかぜの予防法を教えてください。

### おたふくかぜにかかったら…

おたふくかぜを治す特別な治療はなく、症状を緩和する治療が主体となります。合併症の症状が重い場合は、入院が必要になることもあります。

腫れや痛みのために口を開けづらい期間は、お粥、豆腐、プリン、ゼリー、スープなど、



柔らかく、噛まずに済むものをとりましょう。固い食べ物やガムは唾液腺を圧迫し、痛みの原因になるので厳禁です。また、酸っぱいものをとると唾液腺が刺激され、唾液が増えて腫れや痛みが悪化します。

腫れがひどくまでは人にうつす可能性があるため、自宅で休むようにしてください。



おたふくかぜには、ウイルスの感染力を弱めた生ワクチンを用います。

予防接種は1歳からでき、日本小児科学会では、1歳で1回目、5〜6歳で2回目の接種を受けることを推奨しています。以前は公費で負担する定期接種が行われていたことがありますが、現在は自費負担で行う任意接種となっています（費用の助成を行っている自治体もあります）。

おたふくかぜの免疫がないまま大人になっても予防接種を受けることができますが、年齢が高くなると副反応が出やすくなります。また、生ワクチンのため、妊娠中の女性は受けることができません。

おたふくかぜにかかったかどうかかわからない場合は、ムンプスウイルスに対する抗体の有無を調べる抗体検査を受けることをおすすめします。

## A ワクチンの2回接種が推奨されています

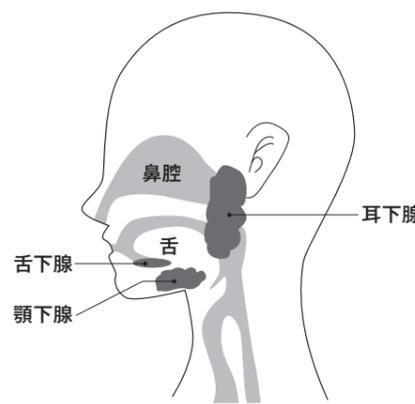
## Q1 おたふくかぜとはどんな病気ですか？

## A 原因はムンプスウイルス 主な症状は耳の下の腫れ

おたふくかぜは、ムンプスウイルスに感染することで起こる病気です。2〜3週間程度の潜伏期間を経て発症します。ただし、感染しても30〜35%は症状が現れない不顕性感染であるとされているため、おたふくかぜにかかったことがあるかどうか、わからない人もいます。

主な感染経路は、飛沫感染と接触感染です。飛沫感染は、感染者の咳やくしゃみなどからウイルスを含んだ飛沫が飛び、周囲の人が吸い込むことによって感染するものです。接触感染は、感染者と濃厚接触したり、ウィ

### 唾液腺のある場所



おたふくかぜの代表的な症状は、両側または片側の耳の下（耳下腺）が腫れて、痛みや発熱が起こることです。顎下腺や舌下腺に感染が及ぶと、下顎や首のあたりまで腫れや痛みが広がります。

ルスが付着した手すりやドアノブなどに触れた手で、口や鼻目に触ったりすることで感染するものです。ウイルスは症状が現れる6日ほど前から唾液中に排出されるといわれ、知らないうちに人にうつしてしまうことがあります。

ムンプスウイルスは唾液腺に感染しやすく、炎症が起こると耳の下や下顎のあたりが腫れ、痛みや発熱が生じます。また、倦怠感や頭痛、筋肉痛、食欲低下などが現れることもあります。が、たいていは1〜2週間程度で治まります。

教えてドクター！



## 知っておきたい 健康相談室

合併症に注意が必要！

## おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）

新型コロナウイルス感染症の流行の陰で、忘れられがちな感染症があります。その1つが「おたふくかぜ」で、正式には「流行性耳下腺炎」といいます。3歳から6歳くらいまでの子どもに多い病気で、軽症の場合がほとんどですが、さまざまな合併症を引き起こしたり、重症化したりする場合もあるため、注意が必要です。



監修 **山口 泰**  
やまぐち・やすし  
山口内科院長（鎌倉市大船）  
鎌倉市医師会会長  
順天堂大学医学部卒。医学博士。カリフォルニア大学サンディエゴ校などで肝臓病を研究。現在は内科系家庭医として幅広く診療を行っている。著書に「わかって治す！家庭の内科学」（ごま書房）、「ぜんそくをコントロールする」（保健同人社）がある。日本医師会「新型コロナウイルス感染症外来診療ガイド」編集長。